

## &lt;プレスリリース&gt;

## 石炭火力発電所松浦 2 号の営業運転開始はパリ協定に逆行する ～時代錯誤な計画に対する抗議声明～

2019 年 12 月 18 日

特定非営利活動法人 気候ネットワーク  
代表 浅岡 美恵

九州電力が 12 月 16 日、松浦発電所 2 号機(長崎県松浦市)が 20 日の営業運転を前に報道陣に公開したことを各種新聞等メディアが報じた。これから新たな石炭火力発電所を稼働することは、パリ協定の「1.5～2°C 目標」の達成を極めて危うくするものであり、到底認めることはできない。また本事業は現行の環境影響評価法に基づく、環境影響評価も実施していない不適切な計画であり、速やかな中止を求め、厳重に抗議する。

この計画は、超々臨界圧の技術をつかった 100 万 kW 石炭火力発電所で、CO<sub>2</sub> 排出量は推計で年間 532 万トンに及ぶ※。現行の環境影響評価法に基づく環境影響評価ではなく、いわゆる「省議アセス」と呼ばれる 1997 年 9 月から通産省省議決定に基づく環境アセスメントを実施した古い計画である。その後 2001 年 3 月に工事計画届出が行われたが、2004 年 6 月には電力需要の減少から工事が中断されていた。ところが 15 年以上経過した 2015 年 11 月に工事計画変更届出がなされ、2016 年 1 月に工事を再開している。20 年以上前に環境影響調査を行い、その時の調査報告があらためて公開されることもないままに、ゾンビのように建設計画を蘇らせたのである。工事再開当初、2019 年 10 月に試運転を始め、2020 年 6 月に営業運転に移行する予定と公表されていたが、急ピッチで工事をすすめ、稼働時期を前倒しさせた。

現在、世界的な温室効果ガス排出量はいまだ増加傾向がみられ、1.5°C 目標の達成が極めて危うい状況にある。先だって国連環境計画が発表した「Emissions Gap Report 2019」では、2°C 目標の達成には、各国が NDC で定めた 2030 年時点の削減目標の 3 倍(15GtCO<sub>2</sub>)、1.5°C 目標の達成には、5 倍(32GtCO<sub>2</sub>)削減する必要があるという厳しい現実をつきつけている。また、12 月 2 日からスペイン・マドリードで開催された COP25 では、日本の石炭火力発電所の方針が国際社会の中で強い批判を受けたばかりである。当該発電所のように年間 532 万トンもの CO<sub>2</sub> の大規模排出を伴う発電所を新たに運転すること自体が、国際社会の「脱石炭」の潮流から外れ逆行する日本を象徴するものだ。九州電力は即刻この計画を止め、再生可能エネルギーへの転換に進むべきである。

※報道では 470 万トンとなっているが、現行の環境影響評価法に基づく手続きが行われておらず、実態が分からないため推計値。  
<参考リンク>

いまさら「復活」ですか ～昔むかしに計画されたゾンビ石炭火力までも

[https://sekitan.jp/info/eia\\_20160120/](https://sekitan.jp/info/eia_20160120/)

「松浦発電所2号機 増設工事の再開について」九州電力によるプレスリリース(2016/1/27)

<http://www.kyuden.co.jp/var/rev0/0050/4281/yemz243ph8m91c.pdf>

松浦発電所2号機の発電を開始しますー2019年6月1日から試運転による発電を開始ー九州電力によるプレスリリース(2019/6/1)

[http://www.kyuden.co.jp/press\\_h190531c-1.html](http://www.kyuden.co.jp/press_h190531c-1.html)

お問い合わせ:特定非営利活動法人 気候ネットワーク (<https://www.kikonet.org>)

【東京事務所】〒102-0082 東京都千代田区一番町 9-7 一番町村上ビル 6F

TEL: 03-3263-9210、FAX:03-3263-9463、E-mail:tokyo@kikonet.org

【京都事務所】〒604-8124 京都府京都市中京区帯屋町 574 番地高倉ビル 305

TEL: 075-254-1011、FAX:075-254-1012、E-mail:kyoto@kikonet.org